

「選手のサポート不十分」

“金”ゼロのリオ大会を総括（日本パラリンピック委員会）

日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会は11月25日、リオ大会の総括を公表した。金メダルがゼロだった理由について、選手のサポート体制が不十分だったなどとし、東京大会に向けて環境整備の強化を行う方針を示した。

リオ大会の成績は銀10個、銅14個。前回のロンドン大会の総メダル数16個は上回ったものの、金がゼロという残念な結果になった。

同委員会はこの理由について、①ベストパフォーマンスを発揮するサポート体制が不十分 ②世界の金メダル候補選手の情報分析が不十分 ③金メダル獲得可能性のある選手層の薄さ ④競技力強化に向

けた取り組みの遅れを挙げた。

その上で、東京大会に向け、より早い段階でメダル獲得の可能性のある競技と選手を選定することや、練習環境を強化することなどが不可欠と指摘。医学情報などに基づく強化策の徹底や、国際競技力の向上、練習場所の充実、ジュニアアスリートの発掘などを挙げた。

このほか、車いすや義足など競技用具の研究開発や、国の支援強化、企業のスポンサーシップ拡大を掲げた。

（福祉新聞・第2792号 2016年12月26日）